

## 論文審査の結果の要旨

氏 名 フリガナ 二瓶 さやか  
 学位の種類 博士（社会福祉学）  
 学位記番号 甲第7号  
 学位授与年月日 平成27年3月19日  
 学位授与の根拠 岩手県立大学学位規則第3条第3項（論文博士の場合は第3条第4項）  
 学位論文題目 要介護高齢者における食事支援の指針のあり方に関する研究  
 論文審査委員 主査 狩野徹  
 副査 小川晃子、宮城好郎

## 審査結果の要旨

## 1. 本審査の経過

平成26年9月17日、平成26年度第5回社会福祉学研究科教授会において、二瓶さやか氏より博士後期課程学位本審査申請論文が必要書類とともに提出された旨、研究科長より報告がなされ、審議の結果、受理が決定された。同教授会で、本審査委員（狩野徹、小川晃子、宮城好郎）が正式に決定された。審議会（修了試験）を平成27年2月4日に実施した。本審査委員会で審議の結果、本論文は全体として博士後期課程学位相当の論文の必要条件を満たしているとの結論に達した。

## 2. 論文の評価と修了試験の結果

論文の要旨は以下の通りである。

わが国の福祉分野は、2000年の公的介護保険制度や社会福祉基礎構造改革の導入によって、それまでの福祉制度に大きな転換をもたらした。さらに、介護サービスの中心的な役割を担うとして、国家資格として位置づけられた介護福祉士への期待も高まりをみせ、介護福祉士の専門性・独自性の確立も重要な課題となっている。

介護サービスの中でも、「食事」は要介護高齢者のQOLを向上させる要因の一つであり、介護サービスの満足度とも高い関連がある等、食事支援の重要性が先行研究によって報告されている。しかしながら、食事支援は「安全に食事を摂取する」といった点に主眼が置かれており、食事支援の具体的な支援のあり方を示した研究は極めて少ないのが現状である。そこで、本研究では、要介護高齢者における食事支援のあり方を考察し、食事支援の指針を示すことを目的として取り組んだ。

第1に、介護サービスの質を高める食事支援のあり方を考察するために、「質」の定義と「介護」の概念枠組みについて先行研究より考察を行った。「介護」概念は、専門職や立場により捉え方が一定ではなく、「介護」の明確な概念や定義は不明瞭であることが明らかとなった。このことから、「介護」概念の統一の必要性について言及し、本論文にお

ける「介護」の概念規定を示した。

第2に、要介護高齢者のサービス満足度や生活の質に高い関連が示されている「食事支援」の意義について考察を行い、調理活動を実践するなど介護サービスのなかでも食事支援に重点を置いているグループホームを対象に、食事提供の現状と課題を明らかにするために実態調査を実施した。食事支援は、栄養補給だけでなく、「生活の楽しみ」と捉えたいうえで、支援方法について検討し、施設独自の取り組みも多く実践されていることが明らかとなった。また、食事支援は、利用者の生活歴や嗜好の把握などアセスメントの重要性、調理環境の整備、意欲を引き出す職員の声かけ、食事の雰囲気作り等に関する重要性も認識されており、食事支援のアプローチは多岐にわたることが示唆された。

第3に、グループホームを対象とした食事支援の実態調査から得られた知見をもとに、食事支援の指針を構成するための概念について考察し、実践現場に従事する介護福祉士の有資格者に食事支援に関する意識調査を実施した。食事支援の意義やもたらす効果に関する認識は高い一方で、実際の食事支援に関する評価は低い傾向にあり、介護実践に対する肯定感が低いことが示唆された。さらに、介護の実践現場では、食事支援の方法について検討されているものの、実際の支援内容に関する評価や振り返りを実施している施設は少数に留まっていることも明らかとなった。

第4に、食事支援のあり方を示す指針として検討した項目とその具体的内容について、実践現場に従事する介護福祉士の有資格者に調査を実施して考察を行った。食事支援の指針として、1. 食事認識への支援 2. 機能的な能力への支援 3. 環境における刺激と質の調整 4. 安心と安全への支援 5. 生活の継続性への支援 6. 自己選択への支援 7. ふれあいの促進 の7カテゴリー、全71の項目が提言へと至った。また、本調査結果をもとに、食事支援の構造について分析を行い、食事支援の指針において示された課題について概観した。

本研究において提言した食事支援の指針は、介護福祉士の養成教育や介護現場において、食事支援のあり方や課題について検討（教育・研修）する際に職員の共通認識を図るツールとして、さらに、食事支援を広義に捉える視座を与えることで、介護福祉士の専門性・独自性へも寄与するものと考えられた。

このように、本論文は、食事支援の指針を提示するまで、課題を一つ一つ調査により検証していき、まとめた結果を毎年学会発表及び論文投稿するなど成果を積み上げている。本論文の提出要件である「主題にふさわしい学術誌掲載論文」は3編と掲載予定1編提出されており予備審査に必要な要件を満たしている。更にその中の1つは「日本介護福祉学会奨励論文賞（2013.10.20）」を受賞するなど、介護福祉の分野ではこれまで実践が中心で理論的にまとめることが少なかった研究分野に一石を投じたものとなっている。まとめられた論文について、審査委員から、用語の定義の明確化、分析方法の確認

等の指摘を受けていたが、口頭試問では適切に応答し、軽微な修正、追加で論文の完成が見込め、実際に加筆修正されたことを確認することができた。

### 3. 結論

以上の審査結果から、本審査委員会は、岩手県立大学大学院学位規則第8条に基づき、二瓶さやか氏の申請論文は博士学位（社会福祉学）論文としてふさわしいものであると判断した。